



「東電さわやかケア武蔵野」事業所内の様子

図 口腔ケアプログラム

口腔ケアプログラム 平成22年10月26日

様の口腔内状況

義歯(なし)	あり			
		自立	一部介助	全介助
歯ブラシ				○
義歯装着				
うがい			禁止	

保清状況
 良好
 口腔粘膜の状態
 良好
 口腔乾燥 (+)
 舌、口唇乾燥
 舌苔
 なし
 口臭
 なし
 その他
 なし

口腔ケアプラン

1. 口唇はリップクリームをこまめに塗って下さい。
2. 軽く湿らせて吸引アワミで → 口の灰印の順番で磨く
3. くるりアワミで → 口の隅の水でやさしく拭く。口の中心全体を拭く。水気を軽く拭き取り行う。
4. 仕上げには 保湿剤(うがいキープ等)を全体に塗る(舌、上顎)

※アワミ類は月に1度は交換して下さい。
 (日中1回、夕方~夜1回) 2回/日は必ず行って下さい。

したり、歯ぐきがしつかりして入れ歯を入れられるようになったりと、実にさまざまな効果を目にしているそうだ。それだけ利用者の状態に合ったきめ細かなケアが重要になるが、その都度ケアマネを中心にチーム内で連携をとり、情報共有を図っている。そのために、口腔ケアの方法を見やすく図示したものを活用することも、わかりやすく効果的だという(図)。

また、ヘルパーによっては利用者が口を開けてくれないなどの例も多いそうだが、それを解決してくれたのもチーム連携と情報共有だ。口を開かない原因について検討したところ、声かけ次第で利用者の反応が大きく変わること気づいたという。

「言葉の使い方、言い方一つで驚くほど違います。口腔ケアのチームを通して学ぶことは非常に多いですね」と池谷氏は言う。また、訪問歯科医との連携が多い廣瀬常ケアマネジャーは、「歯科医が見る健康は角度が違います。口腔管理がいかに全身の健康と結びつき、利用者のQOLを向上させるのかということを実感しています。現場のヘルパーがよく気が付

くことも、非常に助かっていますね」と笑顔で語る。

口腔ケアのニーズ拡大に備え 法人全体でバックアップ

こうした口腔ケアの重要性は、本社でも認識し、研修などでバックアップを図っている。同社では7~3月にかけて毎月1回、サ責全員と常駐スタッフに本社研修を実施しており、カリキュラムに口

腔ケアを取り入れている。

同社介護事業運営グループの古田有希統括長は、「まだ口腔ケアに力を入れている事業所は一部ですが、需要がますます高まっていくことは間違いありません。今後、さらに多くの事業所で歯科医との連携がスムーズにとれるよう、法人としてこれまで以上に口腔ケアに力を入れていきたい」と展望を語る。

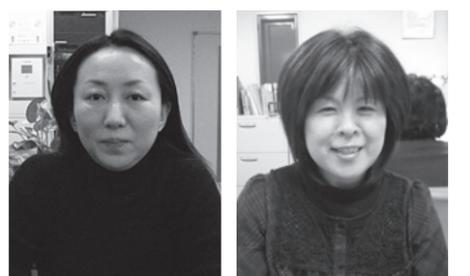
ヘルパーの意識が向上し 訪問時に必要性を確認

「数年前から口腔ケアの需要は確実に高まり、事業所全体で意識が変化しています」と「東電さわやかケア武蔵野」の池谷いつサービス提供責任者は言う。

同事業所では現在、サービス提供責任者3人と登録ヘルパー約35人のスタッフで、約80人の利用者にサービスを提供している。居宅

介護支援事業所も併設しているが、口腔ケアのニーズの高まりとともにその重要性を認識、職員全員で知識と技術の共有を図っているという。

訪問介護においては登録ヘルパーとの情報共有が1つのカギになるが、「訪問歯科の先生に事前に許可をいただき、先生がケアに入る際にサ責とヘルパーが付き添い、直々に指導してもらいます。そして別の登録ヘルパーが入るた



介護事業運営グループの古田有希統括長 「東電さわやかケア武蔵野」の池谷いつサービス提供責任者

「口腔ケアの方法や目的は利用者の状態によって異なりますが、この場合は舌を引けばそのまま出てしまうほど非常に体の機能が低下しており、雑菌が入り誤嚥性肺炎を起こすことや、舌の巻き込みによる窒息が一番のリスクだったのです。口腔ケアが最優先すべきケアになる人もいるのだとわかり、あらためてその重要性を実感しました(池谷氏)」

その他にも、同事業所で口腔ケアに取り組んでから、口臭が消えたり、滑舌がよくなったり、歯の状態が改善したことで食欲が増進

Case 1

東電ハートナース株式会社
 東電さわやかケア武蔵野 (東京都武蔵野市)

チーム連携を通して きめ細かい口腔ケアを提供

東電ハートナース株式会社が運営する「東電さわやかケア武蔵野」では、訪問介護サービスにおいて他職種と連携をとりながら積極的に口腔ケアを導入、要介護者のニーズに応じている。同事業所だけでなく、本社も研修でバックアップするなど、法人全体で口腔ケアの取り組みに力を注いでいる。

びにサ責が同行し、ヘルパーへの指導を行っています」と池谷氏。そうした経験を重ねるごとにヘルパー一人ひとりの意識と技術は向上。現在、同事業所の利用者でケアプランに口腔ケアが入っているのは4人だが、その他の利用者にもモニタリングケアの一連の流れとして口腔ケアを積極的に導入している。また、訪問時に利用者の状態を見、ヘルパー側から口腔ケアの必要性を訴えてケアプランに組み込まれるケースもあるという。

適切な口腔ケアが 全身に効果をもたらす

池谷氏が最近の口腔ケアで印象に残っているのは、ターミナルで在宅に戻った利用者だ。往診医を交えた最初のカンファレンスの際に、必要なサービスの優先順位1位として口腔ケアが挙げられていたことに驚いた。

「口腔ケアの方法や目的は利用者の状態によって異なりますが、この場合は舌を引けばそのまま出てしまうほど非常に体の機能が低下しており、雑菌が入り誤嚥性肺炎を起こすことや、舌の巻き込みによる窒息が一番のリスクだったのです。口腔ケアが最優先すべきケアになる人もいるのだとわかり、あらためてその重要性を実感しました(池谷氏)」

QOL向上に導く 口腔ケア実践事例

マンパワー不足などを理由に、口腔ケアの取り組みにまた消極的な介護事業者も少なくないが、パート1で紹介したとおり、もはや口腔ケアは一日も早く取り組まなければならない重要な課題となっている。ここでは、適切な口腔ケア導入に取り組み、要介護者のQOL向上を実現している事例を紹介する。